

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 7 区分
 【発行日】平成 18 年 2 月 16 日 (2006.2.16)

【公表番号】特表 2002-500998 (P2002-500998A)
 【公表日】平成 14 年 1 月 15 日 (2002.1.15)
 【出願番号】特願 2000-528502 (P2000-528502)
 【国際特許分類】

B 6 5 H 35/07 (2006.01)

【F I】

B 6 5 H 35/07 E

【手続補正書】
 【提出日】平成 17 年 12 月 16 日 (2005.12.16)
 【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】特許請求の範囲
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 塗膜 (4) を塗膜保持テープ (5) から基体 (32) に転写する転写具 (1) であって、

塗膜 (4) がコートされた塗膜保持テープ (5) 用の供給リール (2) と、塗膜 (4) から分離した塗膜保持テープ (5) を巻き取る巻取りリール (3) と、塗膜保持テープ (5) を方向転換する転写部 (6) とが収納されたケース (33) を備え、

前記転写部 (6) は、塗膜保持テープ (5) が方向転換するその先端部 (8) がケース (33) から突き出して、ケース (33) から導き出される塗膜保持テープ (5) の長手方向の軸を中心に回転することができるよう設計され、

供給リール (2) 及び巻取りリール (3) が前後に並べられており、

供給リール (2) が巻取りリール (3) よりも転写部 (6) の近くに設けられていること、

塗膜保持テープ (5) を供給リール (2) から巻き出す点が、ほぼ転写部 (6) の回転軸 (A - A) 上に存在すること、

塗膜保持テープ (5) が供給リール (2) から転写部 (6) までの間、自立していること、を特徴とする転写具。

【請求項 2】 前記 2 つのリール (2, 3) 及び転写部 (6) がほぼ一平面上に配置され、供給リール (2) が巻取りリール (3) と転写部 (6) の間に設けられていることを特徴とする、請求項 1 に記載の転写具。

【請求項 3】 塗膜 (4) が供給リール (2) に巻かれている塗膜保持テープ (5) の内側に塗布されており、使用時には前記 2 つのリール (2, 3) が互いに反対方向に回転することを特徴とする、請求項 1 又は 2 に記載の転写具。

【請求項 4】 使用時に前記 2 つのリール (2, 3) が同じ方向に回転することを特徴とする、請求項 1 又は 2 に記載の転写具。

【請求項 5】 歯車 (18, 19) が前記各リール (2, 3) に結合され、前記両歯車 (18, 19) が前記両リール (2, 3) 間での駆動結合を生むよう噛み合い、ケース (33) の内部に設置され、また前記 2 つのリール (2, 3) 及び転写部 (6) を含む交換可能な力セットがケース (33) 内に挿入されるように設計されたことを特徴とする、請求項 1 から 4 のいずれか一に記載の転写具。

【請求項 6】 転写部 (6) が少なくとも 1 つの停止部 (40) を有し、その停止部は別の停止部 (39) と協働して回転角度を制限することを特徴とする請求項 1 から 5 の

いずれかーに記載の転写具。

【請求項 7】 回転角度が少なくとも 90 度に制限され、好ましくは 135 度、より好ましくは 180 度に制限されることを特徴とする、請求項 6 に記載の転写具。

【請求項 8】 少なくとも 2 つの位置に移動することができ、第 1 の位置では転写部 (6) の先端部分を覆い、第 2 の位置では前記先端部分を覆わない部分 (26) が形成されたことを特徴とする、請求項 1 から 7 のいずれかーに記載の転写具。

【請求項 9】 移動可能な前記部分 (26) が動作要素として設計され、転写部 (6) を前記回転軸 (A - A) の回りに回転動作させるため、回転可能に転写部 (6) に接続されていることを特徴とする、請求項 8 に記載の転写具。

【請求項 10】 移動可能な前記部分 (26) が管状であり、少なくとも部分的に前記転写部 (6) を囲んでいることを特徴とする、請求項 8 又は 9 に記載の転写具。